静岡サレジオ通信
サレジオの広場

平成２４年（２０１２）１０月９日
第55号
発行／学校法人星美学園
〒424-8624 静岡市清水区中之郷3-2-1
ＴＥＬ ０５４〈３４５〉２２９６
ＦＡＸ ０５４〈３４８〉０１４５
http://www.ssalesio.ac.jp

特集：上智大学との教育提携

「サレジオ祭：ダンス部の舞台発表」

「キリスト者として生きる」

園長　国吉健二

キリスト者（キリストに従う人）として生きることは旅にたとえられます。旅の途中、目的地を見失い、挫折することもあります。

半年前、NHK,BSプレミアムで「ロング・トレイル（Long Trail）」という番組を見ました。興味深い番組でした。人生の目標を失った人々がアメリカ合衆国東南部のアパラチア山脈（全長3500km）を横断する長い旅に出て行きます。戸惑っている人々の物語です。職を失った人、家庭でうまくいかなくなった人、戦争で多くの親友を失って彼らの永遠の安息のため、裸足で歩く人などが次々と紹介されました。

机の上や頭だけでは解決できない問題があります。しかし、歩くことによって初めて、立ち現われてくることがあります。前へ進むことによって、全身全霊が目覚めさせられ、考え始めます。自然という環境を相手に五感の新しい出会いがあります。自然の新鮮さだけではなく、同じトレイル（小道）を歩く他者もいます。

それぞれの出会いによって、自分を取り戻すことができます。自分を見つめるということはトレイルを歩く一番の魅力です。自分を見つめれば、自ら新しい目標を立てることもできます。人生の再出発になります。

その番組を見ながら、四旬節との共通点を考えさせられました。人生のトレイルを歩きながら、私自身、イエス・キリストと出会ったことは本当によかったと思いました。一回しかない人生を一人で歩むのではなく、案内して下さるイエス様がいます。いつも、新しい目標を見つけるまで、ちゃんと黙っていて、そばにいて助けていただきました。

天の国まで、彼が私たちの十字架も背負って道を開いて下さいます。私たちも彼の後について行けば、どんな挫折でも、道から外れたことがあったとしても、彼が私を必ず捜しに来ます。天の国の向こうまで、引っ張って行ってくれると使徒ヨハネが伝えています。

静岡サレジオに集う園児、児童、生徒の皆さん、共に人生の目標をしっかりと見つめて、イエス様のトレイルを歩みながら、私たちの師、聖ドン・ボスコのように、試練の時でも力強く前進しましょう。

上智大学との教育提携

ミドルステージ教頭　沼波　岳臣

昨年５月にスタートした上智大学との教育提携。この１年の間、さまざまな形で教育提携を進めてまいりました。公開研究会における英語教育の共同研究や教員による上智大学訪問といった交流の機会がもたれ、上智大学と本学園全体の共通理解が順調に進み、充実した深まりをみせています。また昨年度は、教育提携後初めての特別推薦枠を活用し、さまざまな課題や試験をクリアした５名のサレジオ生が、晴れて上智大学への入学を許可されました。今年度に入り、ソフィアコース１期生にあたる中学１年生が入学したこともあり、生徒と上智大学との直接的な関わりも始まりました。今回は中学１年生が体験した内容をご報告いたします。

１．「生き方」の実践

宗教講話（６月２日）　講師：上智大学神学部　瀬本正之教授

キリスト教ヒューマニズムの涵養（かんよう）（:自然なかたちで育み養うこと）を目指し、単にキリスト教を知るだけでなく、その価値観がどのような姿となって表れてくるのかを共に考えました。静岡サレジオで幼稚園児から高校生まですべての児童生徒が大切にしている精神が、上智大学でも同じように大切にされ、それが全世界で大切にされていることを知る貴重な時間を共有しました。

始めは緊張していた生徒たちも、瀬本神父様のユーモアとウィットに富んだお話によって徐々に打ち解け、時には大きな笑い声を上げながら楽しく受講することができました。生徒たちにとって、瀬本神父様のお人柄に触れることができたこと、そして「宗教」という教科が「神の教え」に基づいた「生き方」の実践的な教えであると気付かせて頂いた実り多い授業でした。瀬本神父様、本当にありがとうございました。

２．「英語を学ぶ」から「英語で学ぶ」へ

英語講義（７月７日）　講師：上智大学外国語学部　飯島真里子准教授

グローバルコンピテンシーの涵養を目指し、「英語で学ぶ」ことを体験しました。今回のテーマは「ハワイ」。食文化の紹介から始まり、その背景にある移民の歴史などを英語で学びました。その後、ネイティブのハワイアンと、ハワイに移住してきた日本人、中国人、韓国人、フィリピン人、ポルトガル人の役割を生徒が演じ、それぞれの食文化を英語で紹介する活動を行いました。

オールイングリッシュでの授業。そして上智大学の先生の授業ということもあり、

緊張でガチガチだった生徒たちでしたが、飯島先生が「Call me Mariko! 」と明るく呼びかけられ、丁寧な説明と生徒の声をつかみ取ろうとする環境作りの中で授業が進

むうちにいつしか不安も消えて、一生懸命先生の英語を聞き取り、楽しみながら英語を話す姿が印象的でした。「英語を学ぶ」ことに終始しがちな中高の英語の授業ですが、既習英語の知識でもこれだけたくさんの事を学ぶことができるということ、そして「英語で学ぶ」ことで更に自然に英語を学ぶことができている点は、これからもっと本校で上智大学とともに研究を深めていくことのできるテーマだと思います。飯島先生、本当にありがとうございました。

３．温かい歓迎の中で

上智大学見学（７月１８日）

どんなにすばらしい大学と教育提携を結んでいるのかを知るため、実際に上智大学を見学してきました。まず地下２階から地上８階まである中央図書館に案内され、そこで理工学部の伊呂原隆教授より上智大学の概要を教えていただきました。昼食はたくさんのメニューがある学食で上智大の学生と同じようにいただき、少しだけ大学生気分を味わいました。その後は少人数に分かれてのキャンパスツアー。現役の上智大生が、場所の説明だけでなく、建物の歴史や学生生活、就職活動についてなど、ご本人の体験を交えながら気さくに中学生にもわかりやすく話してくれました。中でも驚いたのは留学生の多さ。そして留学生たちと普通に会話している学生の姿に感動しました。

またイエズス会の神父様のご厚意で、普段立ち入ることのできない歴史ある修道院の聖堂も見学させていただき、イエズス会のドイル神父様とともに祈りのひとときを持つことができました。そして嬉しい出会いもありました。私たちに講義をして下さった瀬本神父様や飯島先生が会いに来てくださり、またサレジオの卒業生たちにもたくさん会うことができました。上智大学をより身近に感じた瞬間でした。このすばらしい大学にこれからさらにたくさんのサレジオ生が進学すると思うと本当に楽しみです。

――――　関わって下さったすべての方々に心から感謝。

『豊かさ』への問いかけ

－フィリピンボランティア研修－

８月１７日（金）～２２日（水）、５泊６日の日程でフィリピンボランティア研修が行われました。この研修は今年で８回目を数え、これまで有志の高校生たちが、首都マニラとネグロス島マリハウ地区を訪れて、現地の子供たちとの交流を深めてきました。

ネグロス島は２０年前には『飢餓の島』と称され、今もなおサトウキビの栽培に島の経済のほとんどを依存しています。貧富の差も大きく学校へ通えない子供がたくさんいます。研修参加メンバーは、毎回サレジアンシスターズの支部を宿舎とし、青少年の職業訓練や地域の子供たちの就学支援に尽力するシスター方のお手伝いとして、現地の子供たちのために一日限りの『ボランティアキャンプ』を開いてきました。ミニ運動会やダンス・ゲーム、日本の伝統芸能などをお披露目したりして、今ではすっかり現地の子供たちの『年に一度のお楽しみの日』として定着しつつあります。

また首都マニラではさまざまな理由から親の養育を受けられず、シスター方に保護されている少女たちの生活施設「ＬＶＣ」を訪問したり、姉妹校でもあるマニラ・ドンボスコスクールのナイトクラスの生徒や、夕方からここに集まってくるストリートチルドレン達と交流を続けてきました。

この研修に参加する生徒の多くが、「恵まれた環境にある自分自身」に気づき、「与えられたものを活かさなければいけないと思った」といった感想を残しています。また、厳しい環境を生き抜くフィリピンの子供たちのたくましさ・明るさに励まされ、『自分になにかできることはないだろうか』と自問するところから、将来や進路のことを真剣に考え始める生徒も少なくありません。

今年の参加者も研修によって心に大きな実りを得、自身の未来を輝かせていくことでしょう。

研修の記録より

・ネグロス島の風景は驚きの連続。確かに貧しいけど、家族が仲良く助け合ったり、皆が仕事を譲り合って暮らしたりしているのって、日本にはもうない精神的な豊かさだと思った。
（普通科・２年）

・ネグロス・パキータス地区に食料を届けた。訪問した家には本当に、何にもなかった。シスターが「この地区には薬もないし医者もいない。病気になったら水を飲んで寝て、元気になるか死ぬのを待つだけ」という話が忘れられない。（普通科・１年）

・マニラでの滞在では、お湯が使えること、トイレが水洗であることに感激。今日は観光の一日でお土産のことを考えていたが、昨日と同じように路上で寝ている人を見て、『私は何のために来たの？』という感じになった。
（普通科・１年）

・とにかく英語だ。今回の研修では『英語ができたらどんなにいいか』と思うことばかり。フィリピンの子供たちの役に立ちたいならまずは英語を勉強しなくては。本気で頑張る。
（普通科・１年）

・「お金=幸せ」の方程式は成り立たないのかな、と思う。でもお金がなければこんないい経験はできなかった。だから、いまはお父さんお母さんに『本当にありがとう』と言いたいです。いつの日か恩返しが出来たら、と思います。（英数科・１年）

静岡サレジオ幼稚園・小学校の保護者様へ
心よりお礼申し上げます。

去る６月のＶＩＤＥＳ静岡による『フィリピン就学支援募金』呼びかけには、多くの保護者様のご理解ご協力を賜り、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

ご寄付総額２４万円はフィリピンボランティア研修に合わせてネグロス島の子供たちに授与されました。一部は基金の準備金とさせて頂きます。

今後共ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「ドン・ボスコ」との出会い

～普通科・新入生研修～

４月２３日(月)～２７日(金)まで(２５日に特進コースと進学コースが交替)、労金御殿場研修センターで普通科１年生の「新入生研修」が行われました。

中学生から高校生へ、意識のステップアップを図るべく、また学習・進路・学校生活の基本について、サレジオ高校での３年間を充実して過ごすためにさまざまな研修を受けました。特に学習については、『中学までの自分を超える』という目標のもと、夜１１時過ぎまで課題に取り組む生徒の姿も見られ、ひとりひとりがひたむきに、意欲的に成果を求める実り多い研修となりました。

特に研修中鑑賞した、学園の創立者ドン・ボスコの生涯を描いたイタリア映画「ドン・ボスコ」には、ほとんどの生徒が初めて出会う感動を覚えたと言っています。

「ドンボスコって、どうしてそんなに人を信じることができたんだろう」「ドンボスコに出会った人は、人生が幸せな方向に変わってしまうと感じた」といった感想がたくさんありました。

「この学校(サレジオ高校)がドンボスコの作った学校で、そこに入った自分もドンボスコとつながっているのかなと思うと、ちょっと誇らしい」というコメントは、ドン・ボスコの生き方と教えが、今も変わらず若者たちを勇気づける力を持っていることを、証しています。

一番熱い夏

～英数科・夏期進学合宿～

８月２日(木)～４日(土)の３日間、清水区三保の三保園ホテルにおいて、今年で２回目となる英数科進学合宿が行われました。大学入試に向けて実践的な力を身につけるという目的にとどまらず、ライバルとの切磋琢磨や自分の限界への挑戦を決意して、この合宿に臨んだのは高校３、２年生の２５名。先生方の熱心な指導を受けて、大きな手応えを得るとともに、進路実現への新たな意欲に燃えました。

この合宿では、自分の志望大学にあわせて自分で受講科目を設定し、タイトな時間割編成の中で、集中を切らさずに取り組み続けなければなりません。しかし参加生徒はみな、この合宿の目的をよく理解し、誰もが目を見張るような素晴らしい取り組みで大きく成長したようです。

受験を控えた３年生にとっては、よい緊張感をもって充実した時間を過ごす中で、これまで生活を共にしてきた仲間たちがより頼もしく目に映り、厳しい受験シーズンを乗り越える気概を養う機会ともなりました。また２年生は、そんな３年生の姿から学びとった受験の厳しさや仲間の大切さを胸に刻んで、『来年もこの合宿で必ず成果を得るぞ』と、早くも気合十分の様子です。「こんなに充実した夏休みは初めて。今までで、一番燃えた夏です」合宿を終えた生徒の、満足げな表情が印象的でした。

熱闘！　球技大会の結果

男子サッカー	優勝３４HR	準優勝	３３HR
男子卓球	優勝１３HR	準優勝	３BHR
女子ドッジボール	優勝２AHR	準優勝	１２HR
女子バスケ	優勝３１HR	準優勝	２１HR
女子バレー	優勝３４HR	準優勝	３３HR

フェアプレーに送られる温かい拍手―
クラスの団結が一段と強くなりました。

中学校3年生 校外学習（7月18日）

三保ハーバルキャンプ場で野外炊飯を行いました。各班にカマドが用意され、皆で役割を分担しました。料理するものは、カレーと自由料理を一品。朝、清水駅前の西友で食材を買い、バスに乗って向かいました。

この活動の目的は、班で事前に計画を立て、話し合いながら協力し、目的を成し遂げることにあります。予算に合わせて、野外炊飯に適したものを自分で購入し、作らなければなりません。今までこのような活動を行う機会が少なかったため、中３の皆にとっては非常に良い勉強になりました。各班内で、自分の役割をしっかりと果たすことができ、元気よく前向きに取り組むことができました。

★生徒の感想★

西友での買い物でひたすら安いものを探し、フルーツをたくさん買う作戦にしました。さらにふとしたところで値下げコーナーを見つけベーコンを取りかえました。品物をつめる袋、保冷剤も持参してとても効率よくかつ楽しく買い物ができました。キャンプ場ではリーダー達を中心に皆が自然と役割分担し、的確に行動できました。アクシデントもあったけれど、自分たちの作ったカレーと軍人焼そばはおいしかったです。とても楽しくできたけれど、片付けのときは周りをあまり考えていませんでした。自分たちの皿洗いが終わり、雑談をしてしまいました。だからもう少し周りを見て行動することができたらいいと思いました。班員と協力しあえて楽しかったです。

中3A 村松那美

中学校2年生 校外学習（7月18日）

校外学習で、まず、静岡地方裁判所の法廷に入りました。そこで、アニメ仕立ての分かりやすいDVDを通し、裁判の仕組みや裁判員制度について学びました。また、裁判官の黒い法服を着て模擬裁判を行い、生徒達は照れながらも演技しました。

次に駿府城二の丸東御門・巽櫓に行き、ボランティアガイドの説明を聞きながら、徳川家康や駿府城について学びました。

そして、セノバで、各班ごとの食事を済ませ、最後は長沼駅近くのバンダイホビーセンターに向かいました。ここはガンダムのプラモデルを中心に企画・製造する工場です。全国のバンダイ製のプラモデルがこの静岡で全て作られているというのは驚きです。コンピューターで３Dの設計をし、光を当てると固まる樹脂を用いて作っていました。建物や働いている人の服装などにもガンダムの世界を感じました。建物の中はまるでホワイトベースのようでした。

★生徒の感想★

小学校６年生のときに、東京の最高裁判所に行ったことがありました。でも、地方の裁判所に行くのは初めてで、小学校のと

き分からなかったことなどが分かりました。裁判には５つの種類があることや、三審制度について、刑事裁判と民事裁判の違いなど、さまざまなことが分かりました。実際に法廷の中に入って法服を着たり、裁判の流れを学べたりして、とても良い体験が出来たと思います。

中２Ａ 増田　桃子

中学校1年生 上智大学訪問(7月18日)

上智大学を訪問してきました。キャンパスツアーでは、実際に上智大学に通う学生さんから、上智大学の特徴や大学生活の雰囲気について詳しい説明を聞くことができ、非常に貴重な体験でした。また、昼食時には学食を利用し、実際の大学生活を身近で感じることができました。大学へ行く意味について考え、今回の大学訪問について全員が感想をまとめました。その中から各クラス１名ずつ紹介します。

★生徒の感想★

上智大学の大学生に紹介されながら歩いていると、留学生と楽しく話している姿が多く見られました。そのような光景を見て、僕は「大学はグローバルなところで、人と人とのコミュニケーションも豊かな場所なんだなぁ。」と、大学に興味が湧きました。大学、それは人と人との大切なふれあいの場所であり、多くの人と一緒に勉強することによって、お互いの考えを分かりあえる場所でもあると強く思うことができました。

中１Ａ

上智大学を見学し、大学生活はとても自由であると知り驚きました。いろいろな服装や髪形をして、大学を自由に出入りする様子を見て、少しいいなとも思いました。

上智大学では、すべての学部の授業を受けることができるそうです。そこから、大学とは自分の夢を実現し新しい自分を見つける、という意味があると思いました。僕はまだ自分の夢がはっきりとしていません。でも、大学で新しい自分とその夢を見つけ、立派な社会人としてたくさんの人に認められる人になりたいです。

中１Ｂ

私は上智大学を訪問し、今までの私の勉強法と今後の私について深く考えさせられました。部活動には１００％の力を出していても、勉強には半分の力も出していなかったからです。だからこの上智大学に来て、このままの私の勉強法だと、きっとどこの大学にも入れないと気付きました。私はまだどこの大学に行きたいか、しっかりとはきまっていませんが、私は英語が大好きだし、将来CAになりたいという夢をもっているので、上智大学はあこがれの場所です。大学進学は先の話なので、この先この気持ちが変わることがあるかもしれませんが、今の私と今後の私についてもう少し深く家族と考える時間をもちたいと思います。

中１Ｃ

はじめまして よろしくね

１年生になって２カ月が経ち、学校生活にも慣れた６月、サレジオ幼稚園の年中組さんと楽しいひとときを過ごしました。

「違う年齢の友達と関わりを持ち、思いやりの心を育てよう」という生活科の学習のめあてのもとに、この日を迎えました。

カプラや積み木を使って、仲良くお城やタワーなどを作りました。ペアさんに寄り添って話したり作ったりしている姿は、いつもは小さな１年生も、今日は大きなお兄さん、お姉さんに見えました。夢中になって遊んでいるうちにお別れの時間が来てしまいました。そして、幼稚園さんが今日のお礼に、元気のよい歌のプレゼントをしてくれました。１年生も楽しかった気持ちを込めて、「ドン・ボスコの輪」を歌い、ひとつの家族になれた事を喜びました。これから、２年間続くペアさんとの絆の小さな一歩を歩み始めました。

「また今度も一緒に遊ぼうね。ありがとう。」といつまでも手を振ってお別れしました。

セントメアリー小学校先生方 歓迎会

今年で１４回目を数える６年生のオーストラリア修学旅行。７月に、２０年近く交流を続けているセントメアリー小学校から、３名の先生方が、サレジオ小学校に来て下さいました。今回、来校して下さった先生方は、リズ副校長先生、レス先生、ウェンディー先生の３名で、長い間、児童を受け入れ、協力して下さっている方々です。来校前の３日間は、５年生の朝霧イングリッシュキャンプに参加し、英語での活動をサポートしてくださいました。３日間、児童と積極的に交流をしてくださり、児童の英語力アップにとても貢献して下さいました。

歓迎会当日は、スクールバンドの演奏に始まり、児童会会長のスピーチ、質疑応答、３年生からの歌のプレゼントがあり、３人の先生方は大変喜んで下さいました。質疑応答では、「セントメアリー小学校の児童数はどれくらいですか。」「どのような教科を勉強しますか。」「日本語の勉強をしますか。」など、子どもらしい身近なことを、英語を交え質問していました。もちろん質問には、英語で答えていただいたのですが、子どもたちの多くは、先生方の英語を聞き取り、日ごろの勉強の成果を発揮していました。最後にプレゼント交換では、児童会から、６年生が数日前に訪問した鎌倉で購入した鎌倉彫が贈られました。そして、セントメアリー小学校からは、校長先生にジャケットをいただきました。子どもたちにとって、６０００キロ離れたセントメアリー小学校を身近に感じる時間となりました。

Asagiri English Camp

7月7，8，9日の2泊3日で5年生が朝霧宿泊学習を行いました。今年は、「Asagiri English Camp」と名付け、セントメアリー小学校から3人の先生をお迎えしました。このCampは、オーストラリア修学旅行に向けての準備として、多くの英語体験活動を取り入れ、日常英会話の習得を目的としたものです。

1日目

朝霧野外活動センターに到着後、「フォトオリエンテーリング」を行いました。活動中は日本語禁止。説明も英語でリーダーを中心とし、少しずつ英語を話すことに慣れていきました。昼食をはさみ、セントメアリー小学校のリズ先生、レス先生、ウェンディー先生の3名の先生と共に、「自己紹介ゲーム」を行いました。オーストラリアに関する内容を取り入れたTrue or Falseでは、オーストラリアの先生方に説明をしていただき、日本との文化の違いを感じました。児童たちは、積極的にオーストラリアの先生方に話し掛けるようになり、あっという間に距離を縮めることができました。1日目の最後は、「英語でクッキング」です。夕食としてカレーを作りました。苦戦しながらも、班で協力しながら知っている単語を使って、なんとか英語で自分の意思を伝えようと楽しみながら作っていました。でき上がったカレーはみんなでおいしくいただきました。

2日目

朝食後に、オーストラリアの先生方にも参加していただき、「イニシアティブゲーム」を行いました。英語でコミュニケーションを取り合い、班で協力して課題をクリアしていきます。得点制で行ったことで、どの班も必死になって取り組んでいました。

その後、松下牧場で牛舎の仕事や乳搾り等の酪農体験をしました。雄牛や子どもが産めなくなった雌牛は、肉牛になるということに児童たちは驚き、毎日命をいただいて自分が生きていることを再認識しました。農家の人の苦労を感じると共に、命の尊さを実感しました。夕食後のプラネタリウムでは、オーストラリアの星空についての話も聞くことができ、有意義な時間となりました。

3日目

いよいよ最終日。「イングリッシュ　アクティビティ」では、オーストラリアホームステイ中の様々な場面における会話の練習をしました。国際や英語αの授業で学習したことを基に、楽しく学ぶことができました。リズ先生にはクリケットを教えていただき、児童たちはとても喜んでいました。

最後に…

今回、オーストラリアの先生方と一緒に活動できたことで、オーストラリアの暮らしや文化について、より深く知るための良い機会となりました。児童たちは、次第にオーストラリア修学旅行のイメージを持つことができ、英語に対する抵抗感が薄くなり、積極的に英語を話すようになりました。また、班や係の活動を通して、ぶつかり合いながらも、お互いを思いやるようになりました。来年のオーストラリア修学旅行が楽しみになったと口々に言っていました。

幼稚園

『サレジオ祭』

６月２３・２４日、「サレジオ祭」が行われました。幼稚園のコーナーは今まで中高の体育館にありましたが、今年から幼稚園内での開催となり、たくさんの人たちに幼稚園に足を運んでいただきました。

たくさんお菓子買ったよ〜！！

どんなヨーヨーが釣れたのかな？

リサイクル品コーナー、駄菓子屋、ヨーヨー釣り、探検迷路、バルーンアート、お父さん達のカキ氷屋などのお店が並び、来てくれたお客さん達もみんな笑顔になって楽しんでいってくれていました。お手伝いのお母さん、お父さん達もとても頑張ってくれました。また来年もたくさんの人に楽しんでもらえるサレジオ祭にしていきたいと思いますので、みなさん是非お越し下さい♪

はっぴを着て一致団結！！大盛り上がりのかき氷屋さん！！

お父さん達が作ってくれたかき氷、とってもおいしいよ♪

『みどりのカーテン』

園庭の芝生化に続き、この夏幼稚園はベランダで「ゴーヤ」を栽培し、みどりのカーテンを作りました。

初めてのチャレンジだったため、少々ツルも細く、葉も小さかったのですが風にゆれる緑のカーテンに涼しさを感じます。収穫した可愛いゴーヤは園長先生がゴーヤチップスにして下さる予定です。来年は今年よりもっと大きな「みどりのカーテン」を作る事ができたら…と思っています。

『つぼみ組の仲間と…　』

四月からサレジオ幼稚園に仲間入りした水野です。毎日とても可愛くて、ユニークな子どもたちと楽しく、にぎやかなつぼみ組で活動しています。日々子ども達の会話や行動の中に成長を見つけ、子ども達と共に喜び合っています。そんな子ども達と生活できる事が出来ることを嬉しく感じています。これからも頑張りますのでよろしくお願いします。

幼稚園

≪ぼくたち、わたしたちのまち！≫

年長児クラスのばら組、さくら組で、静岡県立大学の粘土教室に行ってきました！

大きな粘土の塊を見て、大興奮の子どもたち。まずは、粘土の感触を楽しみました。触るだけではなく、粘土に指をさしたり、落としてみたり、粘土の軟らかさや形が変わる面白さを感じました。

次に、色んなものを作っちゃおう！ということで、最初に一人ひとつカタツムリを作り、そこにきのこを加えていき、その周りに道をつなげていきました。自分の作った道が友達の道と繋がって、大きい町のようになりました。それだけでも、「うわぁ！大きな町みたいになった！」と驚き嬉しそうな子どもたち。

最後に、そこに自分の好きなものを作って加えていきました。自分、友達、建物、花、動物…思い思いのものを夢中になって作りました。

頭にも飾りをつけようよ！なにがいいかな！？

みてみてまんまるだよ！

子どもたちの豊かな想像力、発想の面白さをたくさん感じました。

翌日には、粘土教室でやったことを再現しようとする姿も見られました。子どもたちにとっても、良い経験・思い出となったようです。

『楽しかった絵の具教室』

７月１０日、年中組は県立美術館で行われた絵の具ワークショップに参加しました。天候も良く美術館内の外デッキのタイルがキャンバスに変身！いろいろな絵の具と刷毛が用意されていました。

幼稚園とは違う雰囲気に、裸足になって刷毛を持った子どもたちはワクワクドキドキ！草や花、虫を描く事に夢中になる子集中して色を混ぜる子…。夢中になって自分の思いのまま描いていくと、いつのまにか体操服も足も絵の具だらけ！！それでも「たのしかった～！」と大満足の子どもたちでした。

最後はたわしを持ってお掃除です。子どもたちの手にかかればお掃除も楽しいことの１つです。

歓声を上げながらお掃除をして、あっという間の２時間でした。

ご案内

【平成２５年度園児募集】

満三歳・年少・年中・年長　随時募集しております。
お気軽にお問い合わせください。

電話：０５４－３４５－２５５３

父母の会

サレジオの判断基準

父母の会　会長　加藤　厚

本年度、父母の会の会長を勤めさせていただいております加藤です。日頃から保護者の皆様には父母の会の運営にご協力頂き心より感謝申し上げます。

今、私が父母の会会長として外部の方々にお話しする「サレジオの素晴らしさ」とは『静岡サレジオには確固たる「判断基準」がある。』ということです。静岡サレジオでは園児、児童、生徒は勿論、学校経営に携わる経営者から教職員、そして保護者に至る全ての関係者がこの「判断基準」を尊重しています。これは、校内で何か問題が起こった際、生徒、教職員、保護者が問題解決の為の「判断基準」を共有しているということです。

子供たちは日々の学校生活の中で自然にこの「サレジオの判断基準」を「自分自身の判断基準」として成長しています。そして、この「判断基準」は社会人となった彼らの心の支えとなるはずです。

私たち保護者は自分の子供の「教育の場」としてこの静岡サレジオを選択しました。

縁あってこの静岡サレジオに子供を預けた私たちも、保護者としてこの「サレジオの判断基準」を理解し、尊重する義務があるのではないでしょうか。父母の会といたしましても、保護者の皆様に「サレジオの判断基準」である「キリスト教の人生観や人間観」、ドン・ボスコが説いた「予防教育」などが少しでも身近なものとして感じることのできる機会を作っていきたいと考えております。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

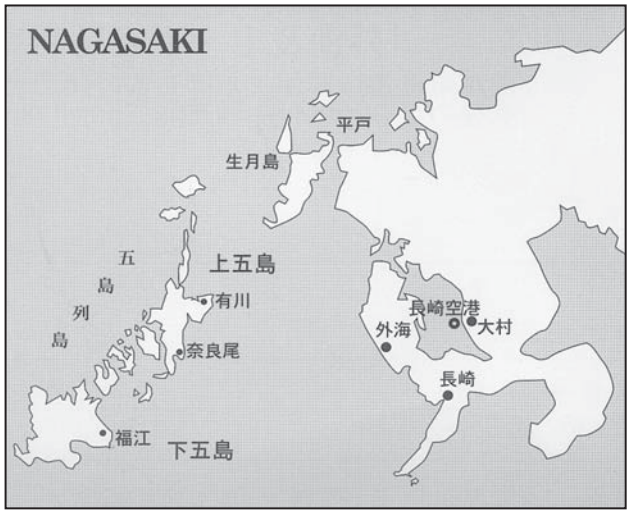
同窓会

同窓会とウニオーネ

同窓会　会長　曽根 幹子

本学園の同窓会は、静岡サレジオ高等学校を卒業した同窓生だけで構成された会に留まらず、日本国内や海外の、同じ教育理念のもとカトリックの精神を学んだ卒業生と繋がっており、その名称を「ウニオーネ」（イタリア語で一致という意味）と呼んでいます。

静岡サレジオ高等学校同窓会は、同窓会世界連合ウニオーネ日本管区に所属しています。ウニオーネ日本管区は赤羽星美、星美短大、星美ホーム、目黒星美、大阪城星、大分明星、小百合ホーム、静岡サレジオの８つの同窓会支部で構成されています。

私たち静岡支部は毎年４月に東京赤羽本部での総会出席、年１回発行のウニオーネ誌への寄稿、２・３年に一度の巡礼・親睦の旅への参加等の活動をしています。今年は日本がウニオーネに加盟してから４０年になり、その記念として１１月に長崎・五島列島巡礼の旅が企画されています。３０周年の時にはドンボスコ、マリアマザレロの故郷イタリアへの旅でした。その時と同様、今回も神父様が同行してくださり、ミサも予定されています。

また、昨年の東日本大震災をうけて、ウニオーネでもこの先長く支援活動を続けていきます。皆様にご協力を仰ぐことも多々あるかと思いますがよろしくお願いします。